

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873400216
法人名	有限会社 たんぽぽ介護サービス
事業所名	くま安心館グループホーム
所在地	上浮穴郡久万高原町久万540-3
自己評価作成日	平成26年6月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年6月23日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>のんびり、穏やかに安心して生活して頂けるよう努めている。また、地元で収穫された食材や、希望の食材を取り入れ、食に力を入れている。食事は美味しいと好評です。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●法人代表者は、職員の研修や資格取得に協力的であり、長く勤務している職員がほとんどである。職員の得意なこと等を活かして取り組みをすすめておられ、デザイナーになることが夢だった職員は、壁画を担当して、利用者の反響を想像しながら、季節毎に飾り付けされている。管理者は、職員からの意見は、「まずは、やってみよう。やってみると、わかることがある」と考えておられ、職員は、今後、利用者を楽しんでいただけるよう、日々の「アクティビティを充実していきたい」と話しておられた。</p> <p>●食材は、近くのスーパーや最近オープンした道の駅に買い物に行かれている。朝食は、4名の方がパン食で、地元のパン屋からパンを届けてもらっている。豆腐や味噌、醤油等は地元のものを使い、慣れ親しんだ味付けで食事ができるよう支援されている。</p>
---

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 くま安心館グループホーム

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

露口 理江

評価完了日

26年 6 月 10 日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所の理念は地域密着型サービスの意義を踏まえたものではないが、理解しやすいもので、日々の業務を行う上で職員共通の介護の指標となっている。また、自分を置き換え日々の生活のお手伝いができるよう努めている。	
			(外部評価) 開設時つくった、「まごころサービス・やさしい介護」という理念とともに、すべての職員で話し合いつくった、「私たちは安心で安全な生活を提供します。私たちは利用者の立場になりその人らしさを大切にします。」という介護理念を掲げておられる。管理者は、利用者、「楽しく生活してもらいたい」と考えており、「自分だったらこうしてほしい」と思うことを日々のケアに採り入れ、取り組めるよう職員に話しておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ・組入りをし、組の会等への参加 ・避難訓練やクリスマス会を開催し地域の方にも参加し、出し物も出して頂き利用者との交流を図った。また、認知症の勉強会を行い、地域の方に参加してもらった。	
			(外部評価) 事業所は、平成23年12月に、現在の地区に移転しており、地域の方達に事業所を知ってもらえるよう、「安心館開放デー」をつくっておられる。開放デーは、外部講師を招き勉強会を行ったり、心と身体を癒すアロマセラピーの講座等を企画して、40軒ほどのお宅にチラシを配布し、20名ほどの方が参加された。又、町内の会合に管理者が出席して、婦人会の方と知り合いになり、7月には七夕の笹飾りを利用者と一緒に作ってくださる予定になっている。秋祭りには、事業所の駐車場に神輿が来てくれて、利用者は神輿の下をくぐる等されるようだ。町内の他グループホームとの交流も継続して行われており、今後は、カラオケ大会を企画して楽しく交流したいと考えておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を通して、地域住民や、民生委員などに認知症への理解や支援方法を伝えている。逆に良い意見やアドバイスをもらうこともある。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ・会議の中で、おはなしボランティアの活用を提案して頂き、現在月に1回開催している。紙芝居やお話をして頂き、利用者は楽しみにしている。また会議での話し合いの内容はスタッフミーティングで報告し、共有している。	会議に地域の方やご家族の参加を増やしていけるよう、会議の意味や目的等も伝えながら、積極的に働きかけていかれてほしい。会議参加を通じて事業所をさらに知ってもらい、ネットワークを広げて、事業所の理解、協力者を増やしていかれてほしい。
			(外部評価) 会議には、市の担当者、民生委員や介護相談員等の参加があり、事業所から利用者の近況や行事等の報告をされている。町内会のお花見に管理者が参加したことがきっかけとなり、1年ほど前から警察署の方が参加してくれている。昨年10月の会議時、市の担当者から参加者についての助言があり、ご家族1名と近所の方の参加が増えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会議に参加してもらい、活動の報告を行っている。また、クリスマス会や、食事会にも参加してもらっている。困難な事例などについて相談し、よいアイデアなどを出してもらっている。	
			(外部評価) 月2回、介護相談員の訪問があり、又、運営推進会議にも参加されている。利用者の暮らしの問題点等について地域包括支援センターに相談して、成年後見制度利用につなげたケースもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員全員が身体拘束について理解し、夜間徘徊やベットから降りようとする利用者に対してセンサーマット、鈴等を利用し、自由に動けるようにしている。玄関の施錠は夜間以外はしない。日中暖かい時は網戸にするようにしたり窓を開け放したりもする。	
			(外部評価) 玄関の戸は、開けるとチャイムが鳴るようになっている。夜間ひとりで歩こうとして転倒の危険がある方には、ベッドの足元にセンサーマットを設置しており、夜勤職員は、居室前の廊下で待機して対応されている。利用者ご本人が、センサーのスイッチを切ることが時々あるようで、介護計画には、「訪室時、センサーの電源を確認する」ことを盛り込んであった。お隣の居室の利用者が、センサーのブザー音で目を覚ますこともあるため、音を小さくして対応している。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  研修に参加したり、月に1回のスタッフミーティングで話し合い確認している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  権利擁護に関する制度について、職員は概ね理解できている。現在成年後見人制度を利用している利用者もいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  入所前には必ず面談を行い、また安心館を見学してもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  来館時に話す機会を作り、心配事・希望など聞き取るように心がけている。また、対応した職員は必ず報告をし、全職員が対応出来るようにしている。意見や要望は推進会議で報告したりもしている。	
			(外部評価)  2ヶ月に1度発行している、「くま安心館便り」は、利用者個々に作成しており、写真を採り入れて行事等を報告されている。便りの発行のない月は、郵送する書類に、暮らしぶり等のコメントを書き添えておられ、毎月、お返事の手紙をくださるご家族もある。毎月、県外から会いに来られる方や3日に1度来られる方もあり、感謝の言葉が多く、「お任せします」と言われる方がほとんどのようだ。さらに、事業所全体の取り組み等も便りを通じて知ってもらい、ご家族からより多くの意見や要望を出してもらえよう、工夫してみてはどうだろうか。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回や夜間に全員参加して、スタッフミーティングを行っている。その場では、利用者の状況を報告したり、「こうしたい」「こう変えたらどうか」などたくさんの意見交換している。また日常生活のなかでもい、気がついた時によく意見が出ている。	
			(外部評価) 法人代表者は、職員の研修や資格取得に協力的であり、長く勤務している職員がほとんどである。職員の得意なこと等を活かして取り組みをすすめておられ、デザイナーになることが夢だった職員は、壁画を担当して、利用者の反響を想像しながら、季節毎に飾り付けされている。管理者は、職員からの意見は、「まずは、やってみよう。やってみると、わかることがある」と考えておられ、職員は、今後、利用者楽しんでいただけるよう、日々の「アクティビティを充実していきたい」と話しておられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格に応じた給与になっており、職員全員資格取得に意欲的で向上心を持ち仕事している。全員介護福祉士の資格取得を目指している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修は県内外多く参加させてもらっている。また介護福祉士、ケアマネなどの受験に関しても配慮してもらっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 他施設との交流を行っている。昨年は、運営推進会議、研修会、食事会などの交流を行った。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前の状況を把握しきれないところは、親族、医療機関から情報収集を行う。本人との会話と観察などで要望を受け止め不安をなくすよう努めている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前には家族の方とも入念な話し合いの機会を持ち、入所後は蜜に連絡をとるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人の状態・要介護度・家族の希望などを聞き適切な支援を行うよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 洗濯物をたたんでもらったり、居室に掃除機をかけてもらったり、やれる事をしていただいているが、必ず職員も一緒に行っている。特に料理の下ごしらえは話がはずむ。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の方が来訪され易いオープンで和やかなホームである様努めている。来られたご家族は本人スタッフも交えて、いろいろな楽しい会話して下さる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 同窓会や敬老会の案内があれば参加していただく。近所に住んでいた方、幼馴染の方など訪ねてこられる。	
			(外部評価) 幼なじみや近所の方、趣味の会の仲間が訪ねて来られており、居室でゆっくり過ごせるよう案内されている。「ふるさと訪問」に取り組んでおられ、生まれ育った場所までドライブすることもある。利用年数が経過し、利用者同士の関係もできており、咳をする利用者の方に、他の方が「今日は、難儀そうじゃね」と心配したり、食事時、ティッシュをたたんで他の利用者に渡してあげるような場面も見られた。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係は、職員が関与しすぎないようにし、それぞれの良好な関係がたもてるように努めている。日中はリビングに出てきてソファで談笑している。歩行が出来ない方のお膳を下げてあげたり、ティッシュを渡してあげたりと、良い関係が気づけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 以前は、入所中の叔父さんの世話をしていた方が、伯父さんの退所後も時々来館してくださり、引き続き母親の入所希望を出されていた。現在入所されている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者に関わる時間を増やし、その時の会話・様子を読み取り、ミーティングで意見交換し、希望に沿うように努めている。	利用者の介護度が重度となり、思いや意向を言い表せない利用者もあり、職員は「表情でよみとる」ことに努力しているが、「本当の思いって何だろう」と思うようなこともあるようだ。利用者一人ひとりがその人らしい暮らしを続けられるよう、職員の「よみとった」意向等について、ご家族の意見をお聞きしたり、職員で話し合いながら支援につなげていかれてほしい。
			(外部評価) 職員は、日々の利用者との会話の中で、「生まれ育った場所や行きたいところ、やりたいこと」等をお聞きして、利用者を知ることに取り組まれている。又、昼食後のひとときや3時のおやつ時、職員は、利用者と一緒にコミュニケーションを図る時間を持てるよう取り組まれている。普段の会話の中で、「岩屋寺にお参りして、参道の売店でニッケ水を飲んでいた」という話が出たことがきっかけで、調査訪問日の昼食後のデザートには、ニッケ水のゼリーを作って、利用者のおひとりが、「岩屋さんを思い出して懐かしい」と何度も話されていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所されるまでの経緯は、家族さんや行政関係者より情報を得る。ここでの生活に慣れて頂きながら、日常会話や表情から把握していくように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々変化する利用者の心身状態を把握し、職員全員が情報を共有し、その人に合った生活を柔軟に提供するよう努めている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画作成者は、本人、家族、主治医からの情報を収集し、一ヶ月ごとに職員全体に伝達しそれぞれの意見を反映しケアプランを作成している。	
			(外部評価) 介護計画は、基本的に利用当初は3ヶ月、その後は6ヶ月ごとに見直しておられる。月に1度のミーティング時には、すべての職員で利用者一人ひとりについてアセスメントして、モニタリングを行い、計画の見直しにつなげるよう取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人の介護記録以外に、1日の喫煙本数、水分摂取量など個別に必要な人は記録している。また、各種バイタルサインも個別に記録している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 介護保険サービスの枠にとらわれることなく、医療保険、障害者制度など利用者により有益となりうるサービスの利用を検討している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 職員が交代で地域ケア会議に参加し、地域での保健、介護医療サービスの現状把握に努めている。現在は多業種が出席している天空の円卓に参加して情報収集している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所前からかかりつけ医に往診してもらうなど、利用者や家族に医療機関を選択してもらっている。現在は在宅医療契約を全利用者がが契約し、24時間体制を確保し、安心して生活できるようにしている。	
			(外部評価) 月2回、24時間対応可能なかかりつけ医の往診がある。かかりつけ医は、町立病院との連携が取れており、入院が必要な時もスムーズに対応してもらえるようになっている。歯科は、訪問歯科が利用できる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 職場内に看護師の配置はしていないが、かかりつけ医や、看護師には相談しやすい環境ができている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 利用者が入院中は、病院関係者や本人、家族と連絡を取り、入院中に発生したADLの変化等の把握に努め、退院後の生活が円滑にできるよう介護計画を作成している。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 数名の方が、ターミナルの希望をされている。終末期においての、本人、家族との関わり方、対応についてミーティングで意見交換・勉強会を行っている。また家族との話し合いも蜜に行っている。昨年は1名の看取りを行った。	
			(外部評価) 昨年9月には、事業所で初めて看取りを支援した事例がある。かかりつけ医は、毎日「朝・昼・晩」と往診に来てくれ、ご家族も会いに来られた。現在、2名のご家族からは、事業所で最期まで見てほしいと希望がある。職員は、定期的に救命救急法の講習を受けておられ、昨年末には、身につけた心臓マッサージを利用者に行い、救急搬送につなげたことで、一命をとりとめたケースがある。利用者は現在、お元気に過ごしておられる。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 全職員が定期的に救急救命講習を受けている。また、急変時への対応について外部研修の受講や、急変時の対応マニュアルを食堂に置く等の対応をしている。昨年末心肺停止となった利用者に心臓マッサージを行い、救急隊につながり無事に帰ってこることができた。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 昼夜両パターンを想定した避難訓練を年に2回全職員、地域住民と共に行っている。近隣住民には、避難の協力をお願いしている。	管理者は、民生委員に、災害時の協力をお願いしているが、さらに協力者を増やしたいと考えておられる。さらに、運営推進会議等も活用して、自然災害時等、事業所としてできること等も提案しながら話し合い、協力体制を築いていかれてほしい。
			(外部評価) 3月に強い地震があった時、夜中に地元の消防団の方が様子を見に来てくださった。事業所は、地盤の固い地域に立地していることもあり、地震発生時には、「事業所から動かない」ことを申し合わせており、1週間ほどの非常食等も備蓄されている。昨年7月には、消防署の協力を得て、台所からの出火を想定して避難訓練が行われた。民生委員の方も参加いただき、車椅子を利用する方の避難を体験していただいた。「下が土なので車椅子をおすことが難しかった」との感想があった。今後はシーツや布団を使用する避難を検討してもらった。	
<b>、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレの声かけ、失禁時などはさりげない声掛けに努めている。時に口論になる時もあるが、職員が中に入りどちらも傷つけないように努めている。	
			(外部評価) ほとんどの利用者には、名前で「〇〇さん」と呼んでおられる。調査訪問日の昼食の途中で、「もう止めとく」と言われる利用者がおられ、職員は、「また後で食べましょうね」と声をかけて、そのまま様子を見ておられた。利用者は、しばらくしてご自分から食事を始められた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者自身が職員に気兼ねしないよう感情表出しやすい環境づくりに努めているが、入所当初から重度に認知症がすすんでいる利用者の以降の把握が困難になってくる為、決めつけにならないよう努めている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物希望は極力添えるようにしている。入浴も順番は決めないで入りたい時に、また食事時間も決めていない。朝はゆっくりしたいと9時頃に食べる人もいる。個々のペースを大事にするようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 意思表示できる人にはその日着る服を選んでもらっている。美容師の訪問カットや、希望により毛染めをされている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べたいメニューを献立に取り入れたり、採ってきた山菜と一緒に下ごしらえし、それが食卓に並ぶととても喜ばれる。また、それぞれ食べやすい器にしたり、刻みにしたりと、美味しく食べれるようにしている。	
			(外部評価) 食材は、近くのスーパーや最近オープンした道の駅に買い物に行かれている。朝食は、4名の方がパン食で、地元のパン屋からパンを届けてもらっている。豆腐や味噌、醤油等は地元のものを使い、慣れ親しんだ味付けで食事ができるよう支援されている。お寿司を好まれる方が多いようでバラ寿司が好評だが、「回るすしに行ってみたい」という希望があり、近々回転ずしに出かけることを予定されていた。庭でバーベキューを楽しむ際には、雰囲気を楽しむよう、ノンアルコールビールも用意されている。職員も利用者と同じ場所で同じ食事を食べており、利用者のおひとりが、「みんなと食べたら美味しいね」と感想を話しておられた。重度化に伴い利用者が日頃、食事作りにかかわることは少ないようだが、つくしの袴取りやイタダリの皮剥ぎ、梅の芯取り等は、職員よりお上手のようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 健康状態、好みに応じた食事を提供し、摂取量も個別に記録している。水分不足が懸念される利用者については一日の水分摂取量を個別に記録している。喉詰めの危険性がある人にはミキサー食の提供を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者個々に声かけし、食後・就寝前の口腔ケアの対応をしている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを把握し、トイレの声かけを行い、失敗は少なくなっている。座位の保持がでない利用者、度々の移乗に疲れを訴える利用者には、リハビリパンツやオムツ等で対応し、排泄後は速やかに交換する対応をしている。家族の希望により、紙パンツから布パンツに変わった利用者もいる。	
			(外部評価) ご家族の、「普通の生活をさせてあげたい」という願いに沿って、紙パンツから布パンツへの移行に取り組まれた事例がある。ほとんど失敗がなく、スムーズに移行でき、ご本人とご家族に喜んでいただいたことから、他利用者への支援にもつながった。排泄パターンをもとに、声かけ誘導して布パンツで過ごすことができるようになった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 職員は利用者個々の排泄のサイクルを把握し、水分摂取量や運動量が適切であるか理解できている。また状態が重い場合は医師に相談し緩下剤の使用もおこなっている。	
			(外部評価) 基本的には、午後からが入浴時間となっている。週3回は入浴できるよう支援されており、希望により1日おきの方もいる。浴室には、液体のボディソープと固形石鹸が用意されており、利用者の好みに合わせて使用されている。浴槽は、一般家庭用浴槽で、またいで入ることが難しい方もいるが、職員が2人介助で対応し、湯船で温まれるように支援されている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望により、入浴剤を使用し、ゆっくり入浴できるようにしている。曜日・時間は決めてなく、本人の意思も尊重している。午後の入浴が多いが、時には午前中に入浴することもある。	
			(外部評価) 基本的には、午後からが入浴時間となっている。週3回は入浴できるよう支援されており、希望により1日おきの方もいる。浴室には、液体のボディソープと固形石鹸が用意されており、利用者の好みに合わせて使用されている。浴槽は、一般家庭用浴槽で、またいで入ることが難しい方もいるが、職員が2人介助で対応し、湯船で温まれるように支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 消灯、起床の時間は特に定めていない。寝具は、個々の身体状態や好みに合った物を使用し、照明、室温等にも配慮し、心地よい睡眠がとれるよう支援している。	
			(外部評価)	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬は職員が管理しており、処方された薬は、処方箋を確認のち個々に仕分けしている。薬の変更があれば、管理日誌、往診ノートに記載し確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) パズルをしたり、ぬり絵・カラオケ・庭の草引きなど、好む事をしてもらっている、	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物や、外出希望などあれば、職員と一緒に出かけている。季節を感じられるよう、花見、夏祭り、どんど焼きなど計画している。希望があり、回転寿司を計画中である。	
			(外部評価) 遠出する時は、介護タクシーを利用されており、伊予市の双海シーサイド公園に出かけた際には、普段海を見ることがないため、利用者はたいへん喜ばれたようだ。5月には、利用者との何気ない会話の中で、「こいのぼりが見たい」という話があり、川を渡しているこいのぼりを見に行かれたこともある。林業試験場や地元の中学校にお花見に行かれた時は、「気分がええわい」と感想があったようだ。近くの神社にお参りに行くようなこともある。介護度が重度で遠出が難しい方は、庭でひなたぼっこして外気にふれる機会を作っておられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理は職員が行っているが、買い物希望時には一緒に買い物に行ったり、職員が対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ことらからかけることは少ないが、家族からの電話には喜んで話をされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) お正月にはしめ飾り、3月には雛人形、5月には五月人形等を玄関やリビングに展示し、リビングの壁面には、スタッフ手製の季節に合わせた紙飾りを飾ったりと季節感を感じられるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 調査訪問時には、居間で洗濯物をたたんだり、人形と一緒にソファに座ってくつろぐ利用者の様子が見られた。居間は、天井が高く、掃き出し窓から自然光が入り、壁が白色で明るい。壁の一面には、美大生が描いてくれた職員と利用者の似顔絵を飾っておられ、誰の似顔絵かを話題にして話が弾むようだ。廊下には、休憩できるようソファが置かれてあり、外を眺められる場所には椅子を配置しておられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テレビの前に皆で見られるよう、ソファを配置し、食卓と雑談できる場を狭いながらも、確保している。また廊下にソファを置きゆっくりできる場所を確保している。	
			(外部評価) 個人の居室には自宅で使用していた家具を配置し、なるべく在宅に近い、寝室となるような環境を整えている。また、家族の来館時には、お部屋でゆっくり過ごしてもらえるように努めている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 個人の居室には自宅で使用していた家具を配置し、なるべく在宅に近い、寝室となるような環境を整えている。また、家族の来館時には、お部屋でゆっくり過ごしてもらえるように努めている。	
			(外部評価) 各居室に、トイレと洗面台が設置されている。使い慣れたタンスや仏壇、テレビを持ち込まれている方がおられた。タンスの上やベッドにぬいぐるみを並べたり、ひ孫の写真を貼ってある方もあった。居室でジグソーパズルを楽しまれる方は、完成間近の作品がテーブルにあった。折り紙もお好きで、たくさんの鶴を折り、千羽鶴のようにして飾られてあった。最近入居した方は、ご自分のお部屋がわかるように、入り口の取っ手にリボンを結んでおられた。タンスは地震で倒れないように突っ張り棒で固定されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自分の居室がわかりにくい方には、イラスト入りの名札を貼ったり、タンスの引き出しにラベルを貼り、洗濯物を自分で片付けやすいようにしている。	